

「日本に在住する外国人ろう者の生活適応に関する研究」

手話言語研究所 外国手話研究部
重田 千輝

1. 外国手話研究部の目的

- 日本の手話と外国手話の対照研究
- 外国の手話事情（手話・ろう者社会の状況）を日本へ紹介
- 日本の手話事情を諸外国へ紹介
- **日本人と外国人ろう者の交流活性化**

2

2. 研究の目的

- グローバル社会において、来日する外国人ろう者が増加しており、ろう者同士の国際交流は年々盛んになっている（加藤ら, 2020）。
- 日本人が海外のろう者と交流する機会の増加にともなって、外国人ろう者に対する関心が高まっていることが考えられる。
- 日本に在住する外国人ろう者の生活様相の調査および分析を行い、国際交流に役立てる。

3

3. 研究方法

- 調査対象者…日本に在住する5名の外国人ろう者（アメリカ・イラン・カナダ・韓国・ペルー）
- 調査期間…2023年9月～2024年1月
- 調査方法…先行研究（全日本ろうあ連盟, 2013； 黛, 2020）および予備調査をもとに質問項目を作成し、半構造化インタビューを行った。
- 質問項目…
 - (1) 移住理由
 - (2) 就労について
 - (3) 病院におけるコミュニケーション
 - (4) 役所におけるコミュニケーション
 - (5) テレビ放送におけるアクセシビリティ
 - (6) 日本の手話言語および日本語の習得

4

4. 結果と考察

4-1 移住理由

アメリカ	結婚
イラン	就労
カナダ	結婚
韓国	結婚および 日本の文化や食事を好んでいるため
ペルー	就労

- ・ きこえる外国人と同様にさまざまな理由で移住
- ・ 日本からアメリカ合衆国に移住したろう者に関する先行研究（大杉, 2005）では、被差別を理由に移住した例が紹介されたが、本研究では見られなかった。

4-2 就労について

アメリカ	・ 友人の紹介でろう関係施設に就職した。
イラン	・ 外国人ろう者というのを理由に雇用を断られたことがある。 ・ たまたま友人の紹介があり、職に就くことができた。
カナダ	・ 日本語の不自由を理由に雇用を断られたことがある。 ・ きこえないことを理由に断られたこともある。 筆談に時間がかかるからというのが理由。
韓国	・ 外国人だから、日本語ができないから、という理由で断られたことがある。ろう者だから、ということはない。 ・ 配偶者（日本人）がハローワークに同行してくれたおかげで、職に就くことができた。
ペルー	・ 来日したばかりの頃は、姉の紹介で就職できた。 ・ 転職した際（数回）に、ろう者であることを理由に採用を断られたことはない。

- ・ 「外国人ろう者」であることや「日本語の不自由」「きこえないこと」を理由に雇用を断られる例が見られた。
→ きこえる外国人よりも就職が困難である可能性
- ・ 家族や配偶者、友人の支援が重要であることが示唆された。

4-3 病院でのコミュニケーション

アメリカ	・ かかりつけの病院に手話のできる看護師がいる。 ・ 他の病院に行く時は手話通訳を依頼。
イラン	・ 自分は声で話し、病院のスタッフには筆談してもらう。 ・ 通い慣れている病院は手話通訳を依頼しない。 難しい話や込み入った話になると、依頼する。 ・ 以前は配偶者（日本人）に同行してもらうこともあった。
カナダ	・ 翻訳アプリを使ってコミュニケーションを取る。
韓国	・ 病院や役所では手話通訳が必須。なかったら厳しい。 ・ 手話通訳がないときは翻訳アプリを使う。 ・ 手話通訳と翻訳アプリだったら、手話通訳の方がいい。 そのために日本の手話を覚える必要がある。
ペルー	・ 大きい病院では通訳を依頼する。 ・ 小さい病院では最初通訳を連れて行き、慣れてきたら筆談。 ・ 日本語や日本の手話をまだ習得していない時は、当時の配偶者（日本人）に同行してもらっていた。

- ・ 手話通訳や翻訳アプリを活用する例が見られた。
- ・ 日本の手話言語や日本語の習得も重要であることが考えられた。

4-4 役所でのコミュニケーション

アメリカ	・ 設置手話通訳者に通訳してもらう。 ・ 通訳者がいないときは英語ができる職員を呼ぶ。 ・ 手話の方がスムーズにコミュニケーションできる。
イラン	自分は声で話し、病院の人には筆談してもらう。
カナダ	・ 言葉がわからない時は配偶者（日本語習得した外国人）に聞く。 ・ 設置手話通訳者のサポートを受ける時もある。
韓国	・ 病院や役所では手話通訳が必須。なかったら厳しい。 ・ 手話通訳がないときは翻訳アプリを使う。
ペルー	・ 市役所には手話のできる職員がいる。まあまあコミュニケーションできる。でも込み入った話ではできない。 ・ うまく意思疎通できなかったときは、諦める。

- ・ 設置手話通訳者のサポートを受ける例が見られた。
- ・ 手話コミュニケーションのニーズが高いことが推察された。

4-5
テレビ放送における
アクセシビリティ

アメリカ	・アメリカの方が字幕のスピードが早く、読み落としやすい。
イラン	・イランにいた時は字幕がなかったので、日本に来てから情報量が増えた。
カナダ	・字幕や手話通訳の付加率は日本と同じくらい。カナダには議会中継に手話通訳が付く。
韓国	・韓国の方が手話通訳が多い。日本は少ないので、不便に感じることもある。 ・手話通訳の方が字幕よりも情報の取得が容易。はっきりとは分からなくても、手の動きや表情などでなんとなくわかる。
ペルー	・ペルーのテレビは手話通訳や字幕が少ない。 ・日本に来てから受け取る情報が増えた。

- ・祖国にいた時よりも受け取る情報量が増加した例が見られた。
- ・「字幕よりも手話の方が情報の取得が容易」という発言も。

4-6
日本の手話言語
および
日本語の習得

アメリカ	・ろう者向けの日本語学校がなく、独学を強いられた。 ・街中の文字表示で日本語を覚えることも。日本語と英語の両方が表記されているから。 ・ろう者の交流で日本手話を覚える。配偶者と知人の紹介。
イラン	・来日当初は日本人の友人知人がいなかったため、苦労した。 ・街にいるろう者を見つけて、話しかけて、友達になった。それから手話サークルを紹介してもらい、ネットワークを広げた。 ・本当は日本語学校に行きたかったが、聞こえる人ばかりで断念。 ・東京に引っ越してからろう者との出会いが増え、日本語の習得スピードが上がった。ろう者から学ぶのが一番早い。
カナダ	・家族に教えてもらい、ひらがなと小学1、2年レベルの漢字を習得した。手話は家族とのコミュニケーションで習得中。
韓国	・配偶者に教えてもらい、日本語と日本の手話を勉強中。
ペルー	・ろう学校を定年退職した知人に日本語を覚えてもらった。

- ・日本語の習得に関して、きこえる外国人より大きい困難を抱える例が見られた。
- ・家族や配偶者、友人の有無で、日本語の習得の容易さが異なることが考えられた。
- ・10年以上前と現在では、日本での生活の円滑さや困難さに差がある可能性が示された。

(移住理由)

- ・きこえる外国人と同様にさまざまな理由で移住
- ・日本からアメリカ合衆国に移住したろう者に関する先行研究(大杉, 2005)では、被差別を理由に移住した例が紹介されたが、本研究では見られなかった。

(就労について)

- ・「外国人ろう者」であることや「日本語の不自由」「きこえないこと」を理由に雇用を断られる例が見られた。
- きこえる外国人よりも就職が困難である可能性
- ・家族や配偶者、友人の支援が重要であることが示唆された。

(病院でのコミュニケーション)

- ・手話通訳や翻訳アプリを活用する例が見られた。
- ・日本の手話言語や日本語の習得も重要であることが考えられた。

(役所でのコミュニケーション)

- ・設置手話通訳者のサポートを受ける例が見られた。
- ・手話をコミュニケーション手段の中心に据えている人が多い可能性が示された。

(テレビ放送におけるアクセシビリティ)

- ・祖国にいた時よりも受け取る情報量が増加した例が見られた。
- ・「字幕よりも手話の方が情報の取得が容易」という発言も。

(日本の手話言語および日本語の習得)

- ・日本語の習得に関して、きこえる外国人より大きい困難を抱える例が見られた。
- ・家族や配偶者、友人の有無で、日本語の習得の容易さが異なることが考えられた。
- ・10年以上前と現在では、日本での生活の円滑さや困難さに差がある可能性が示された。

5. 謝辞

本研究の実施にあたり

廣瀬芽里氏および一般社団法人

撫子寄合(Nadeshiko Yoriai)に

多大なるご協力をいただきました。

心よりお礼申し上げます。

6. 参考文献

大杉豊（2005）『聾に生きる 海を渡ったろう者 山地 彪の生活史』財団法人全日本ろうあ連盟出版局

加藤三保子・小林昌之・相良啓子・赤堀仁美・中山慎一郎・重田千輝（2020）『アジア太平洋諸国の手話』

手話言語研究所『外国手話研究部：研究方針』
<https://www.com-sagano.com/jisls-old/studies/for02.html> (2024年1月31日閲覧)

財団法人全日本ろうあ連盟（2013）『厚生労働省 平成24年度 障害者総合福祉推進事業手話通訳者等の派遣に係る要綱検討事業 報告書』

黛真人（2020）『介護福祉士養成校の外国人留学生が抱える生活課題の実態把握と課題に対する考察』敬心・研究ジャーナル 4（1）